

東栄町のまちづくりに関する調査
若者世代への調査

結果報告書

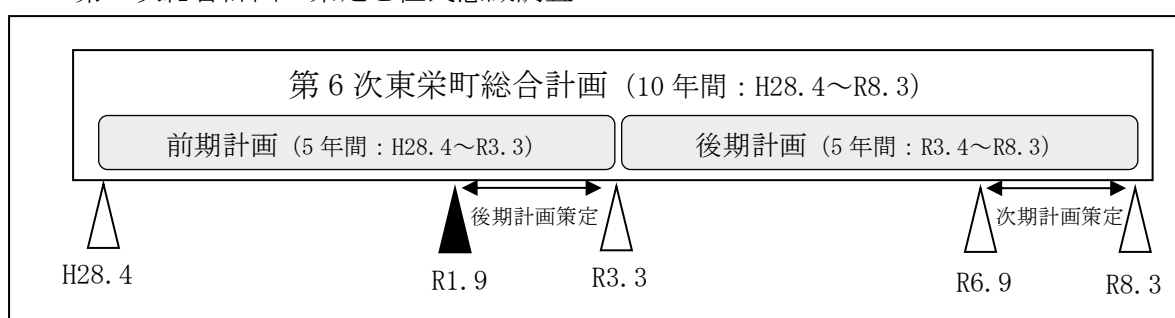
令和元年度

東栄町

1. 調査の目的

2021年3月末をもって、第6次東栄町総合計画の前半期が終了するにあたり、2019年秋より第6期総合計画後期計画策定の準備にとりかかった。この後期計画に、将来地域を支える人材となる若い世代の志向や意見や反映するため、本調査を実施した。

■ 第6次総合計画の策定と住民意識調査



2. 調査方法

- (1) 調査地域 : 東栄町全域
- (2) 調査対象 : 東栄町在住者の2001年4月～2007年3月生まれの全町民
- (3) 対象者数 : 113通 (配布数)
- (4) 調査方法 : 無記名式
(但し、年代・性別・居住地区などを確認)
《東栄中学在校生》
学校を通じてアンケート用紙 (書き込み式) を配布、回収。
《東栄中学卒業生》
卒業生名簿を元に、通知はがきを郵送。
記載したURL及びQRコードよりアンケートサイトにアクセスし、回答。
- (5) 調査期間 : 2019年9月20日～10月4日

3. 回収結果

配布数（対象者数）	113 件
有効回答数	66 件
回収率	58.41%

4. 本報告における注意事項

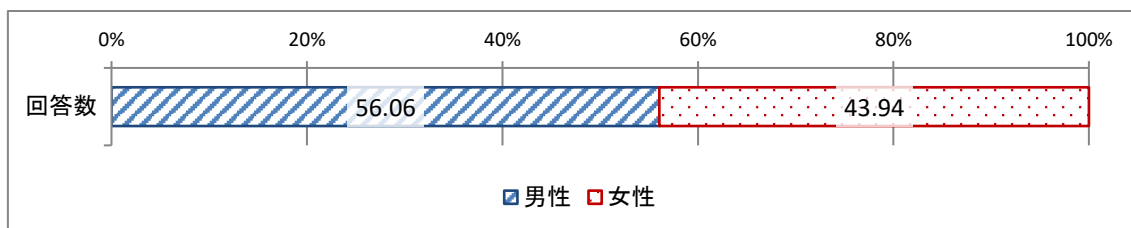
- 図中の構成比（%）は、小数点以下第3位を四捨五入したものを示した。
- 表、グラフ等の見出し及び文中の記述について、趣旨が変わらない範囲で表現を改めた箇所がある。
- 回答者数の母数には、原則として無回答を含むものとする。
- 複数回答可とした設問に対しては、有効回答数 66 を母数とした割合を提示している。

第1章 回答者の属性

問1 あなたの性別を教えてください。

回答した生徒の性別は、男性が56.06%、女性が43.94%となっている。

■性別

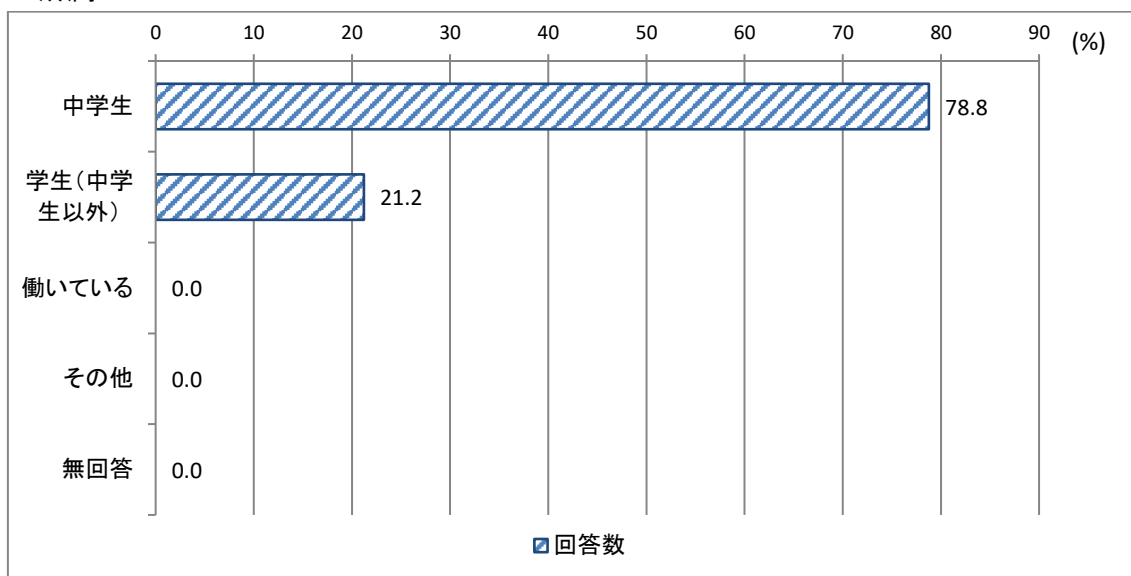


問2 あなたの所属を教えてください。 ※複数にまたがる場合は、主たる立場のものを選択してください。

回答者の就学・就労等の状況を確認した。

78.79%を占めたのは、学校ぐるみで協力を得られた中学生。これを除く21.21%は、ウェブアンケートから回答した高等学校・高等専門学校・専門学校などに通う学生である。

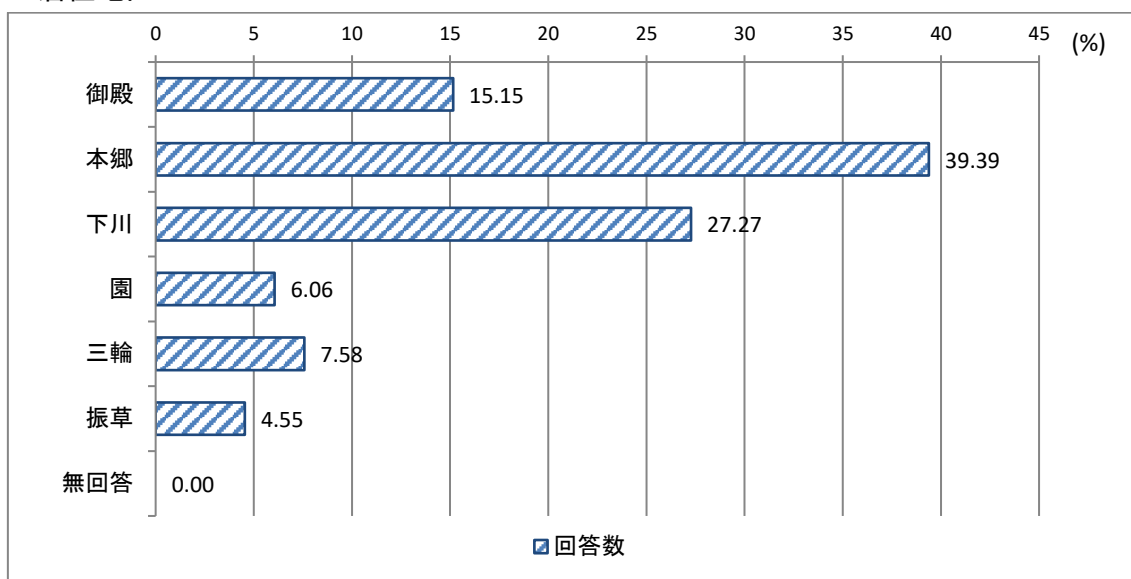
■所属



問3 あなたがお住まいの地区を教えてください。

住民基本台帳（平成31年4月1日現在）の居住地別人口と、回答者（若者）の居住地別人口を比較したところ、若者は、本郷とその周辺地区に集中している傾向が顕著である。

■ 居住地区



※人口比は、住民基本台帳（平成31年4月1日現在）の居住地別人口データに依拠

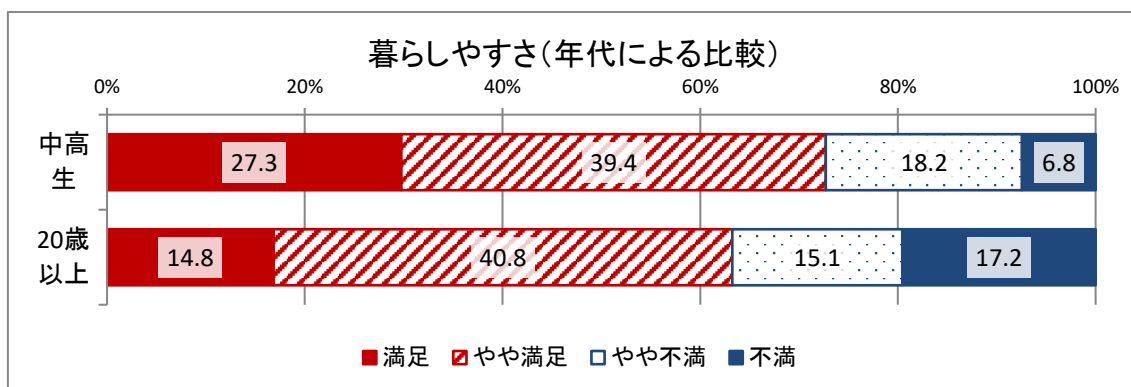
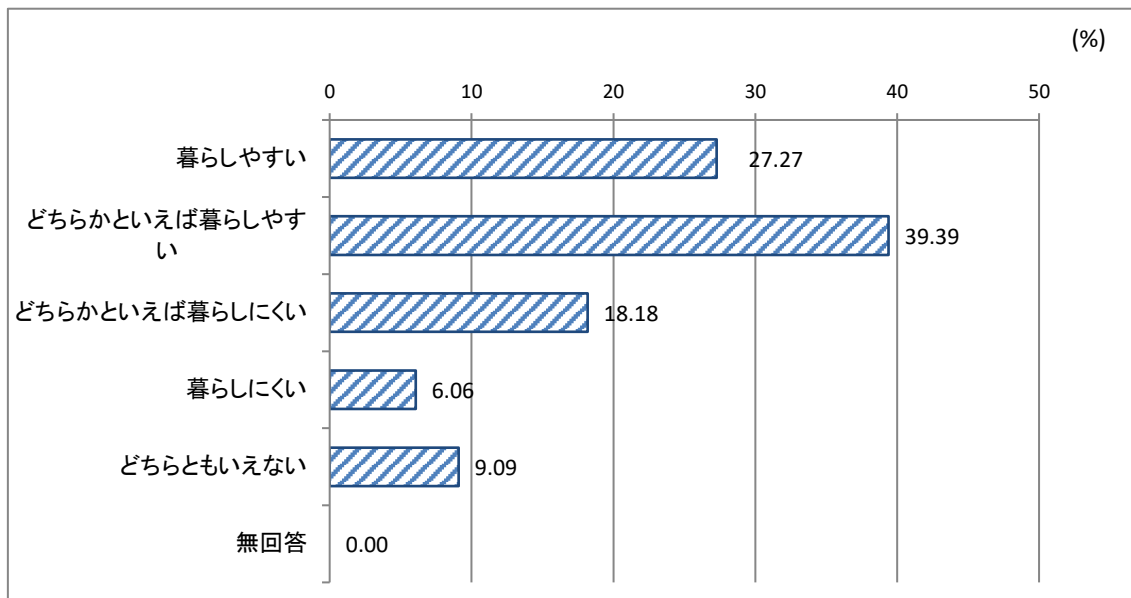
問4 あなたは、東栄町は暮らしやすいまちだと思いますか。

「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」と答えた若者の割合は66.7%にのぼり、並行して実施した住民意識調査（20歳以上の町民対象）の55.6%を11.1ポイント上回る結果となった。

また経年比較においては、住民意識調査の結果が6.4ポイントのマイナスとなっているのに対し、本調査では8.7ポイントの上昇傾向にある。

若い世代は、東栄町での暮らしをポジティブに捉える傾向にあることが分かった。

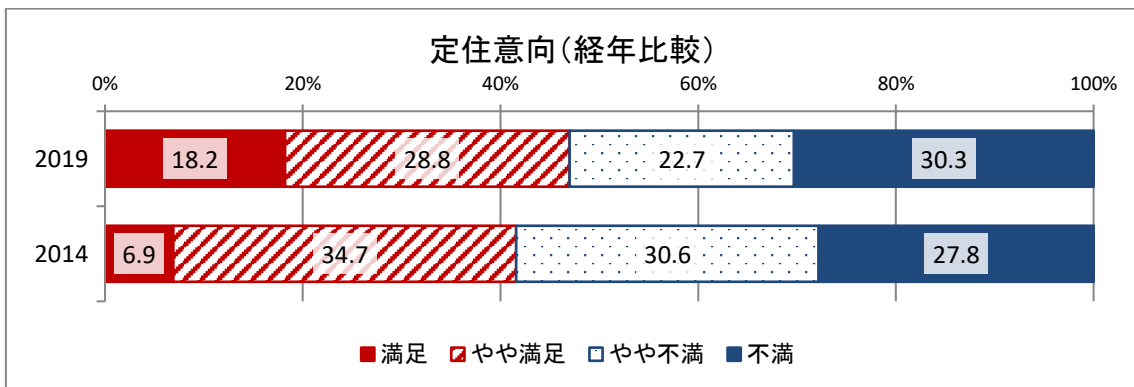
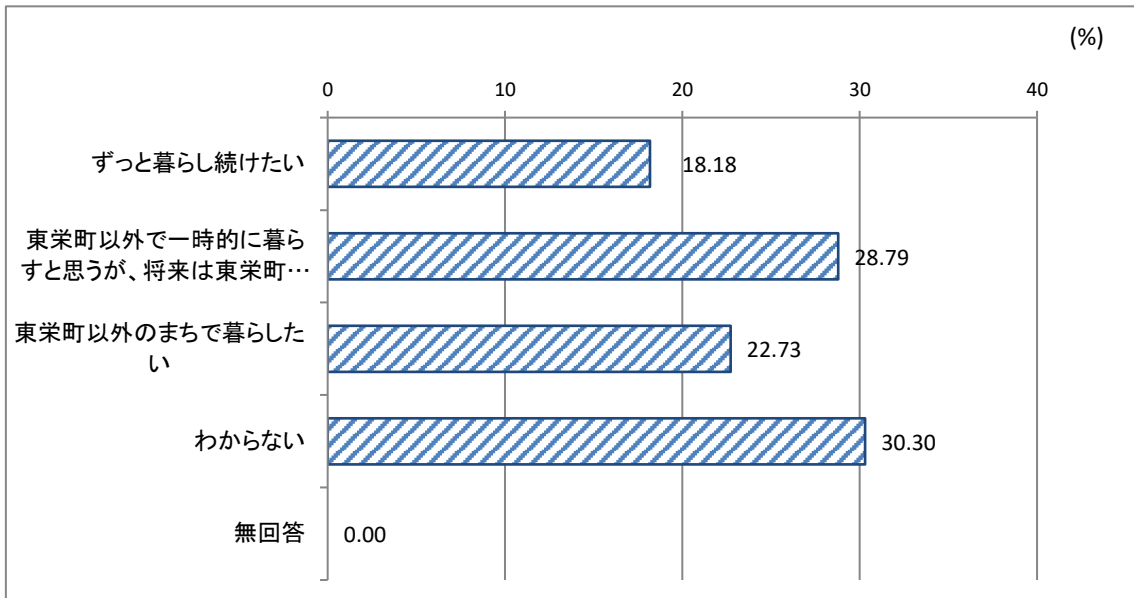
■東栄町は暮らしやすいか



問5 あなたは、これからも東栄町で暮らしたいと思いますか。

「ずっと暮らし続けたい」「東栄町以外で一時的に暮らすと思うが、将来は東栄町に住みたい」と答えた人の割合は46.97%となり、前回調査を5.4%上回る結果となった。特に、「ずっと暮らし続けたい」と考える回答者の割合が11.3ポイント上昇している点が特徴的である。

■これからも東栄町で暮らしたいか



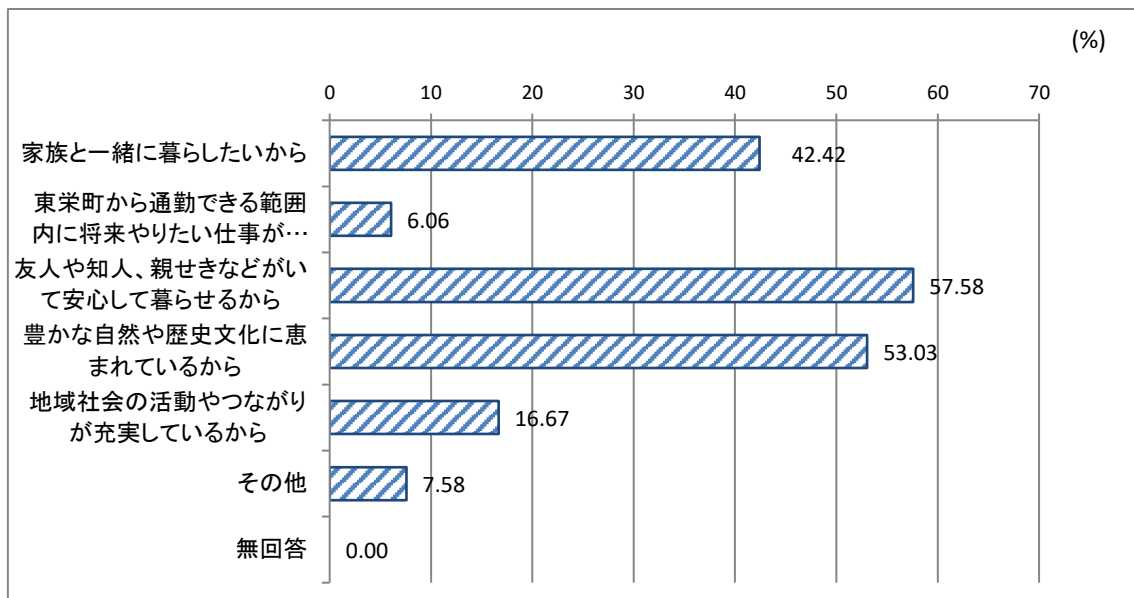
問 6

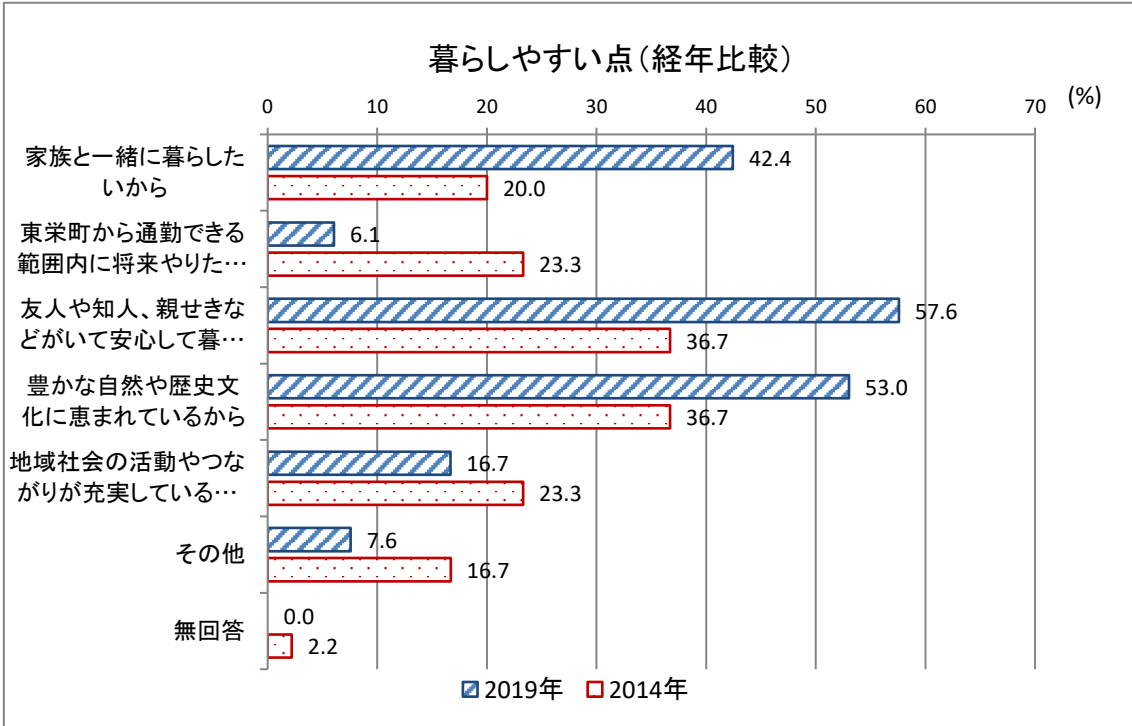
あなたが東栄町で暮らしやすいと感じる点は何ですか。あなたのお考えに近いものを2つまで選択してください。

18歳以下の若者世代は、「身近な人とのつながり」と「豊かな自然環境や文化」に暮らしやすさを感じている。

これらは前回調査でも高評価を得た分野であり、常に子どもたちが成長する環境を支える要因となっていることが分かる。その傾向自体は変わらないが、「1. 家族と一緒に暮らしたいから」「3. 友人や知人、親せきなどがいて安心して暮らせるから」「4. 豊かな自然や歴史文化に恵まれているから」の3項目については、いずれも20ポイント以上の伸びとなっており、若者たちの間で重要度を増していることが分かる。

■東栄町の暮らしやすい点





問7 あなたが東栄町で暮らしにくいと感じる点は何ですか。あなたのお考えに近いものを2つまで選択してください。

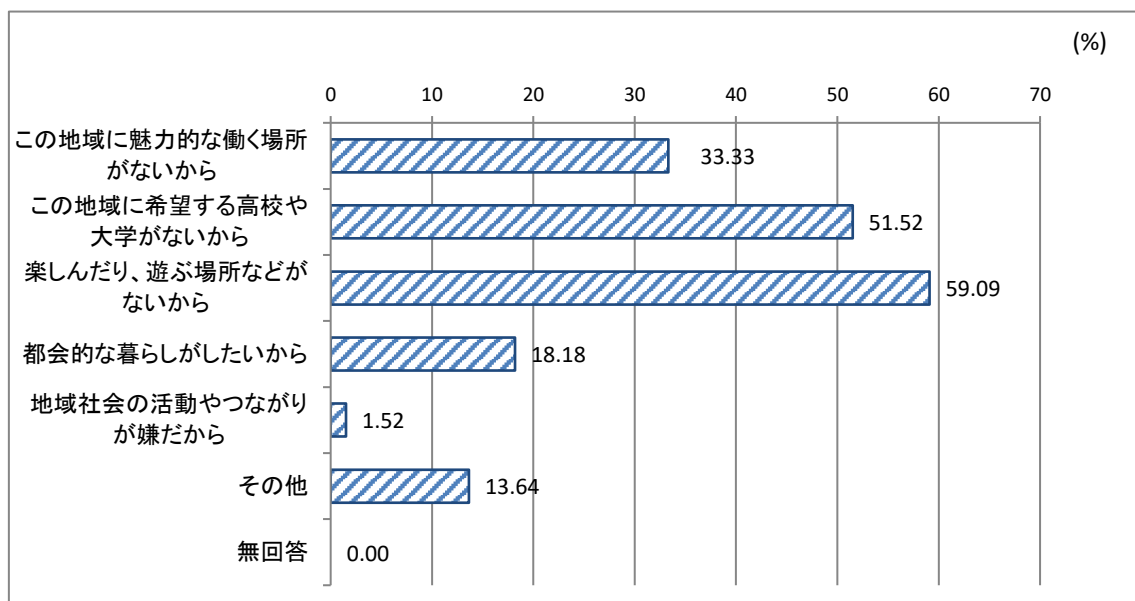
前回調査と比較すると、東栄町の暮らしにくい点として、「この地域に魅力的な働く場所がないから」と答える人が25.5ポイント減少している。

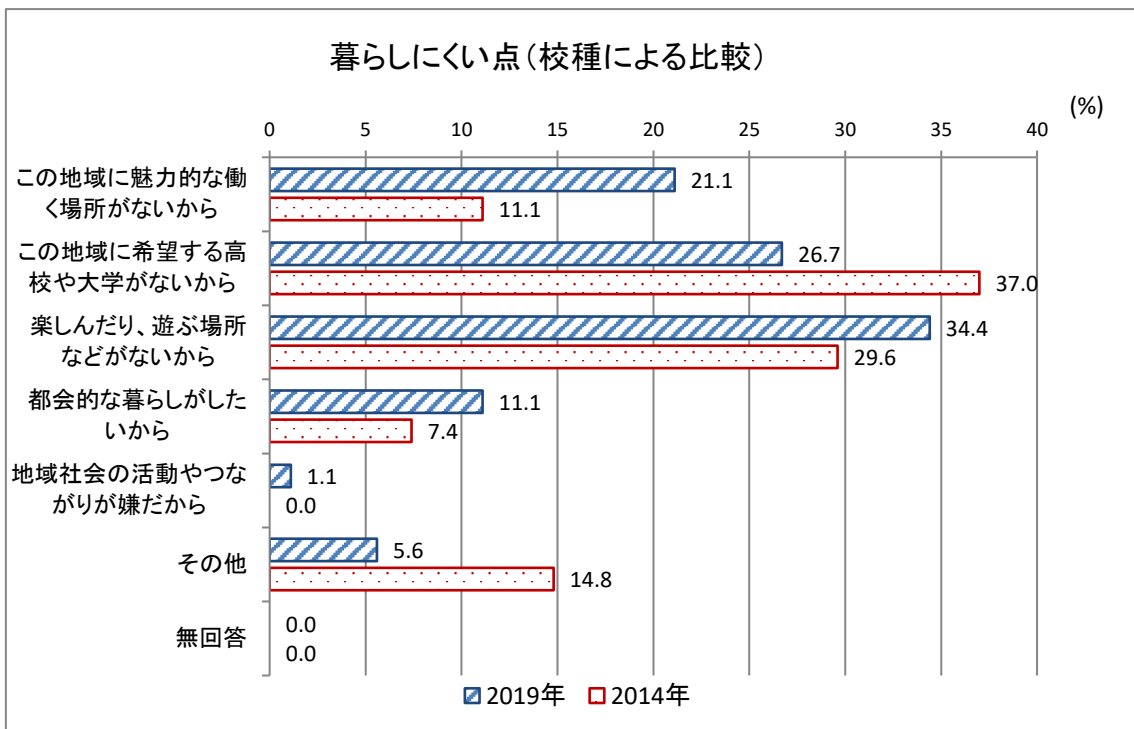
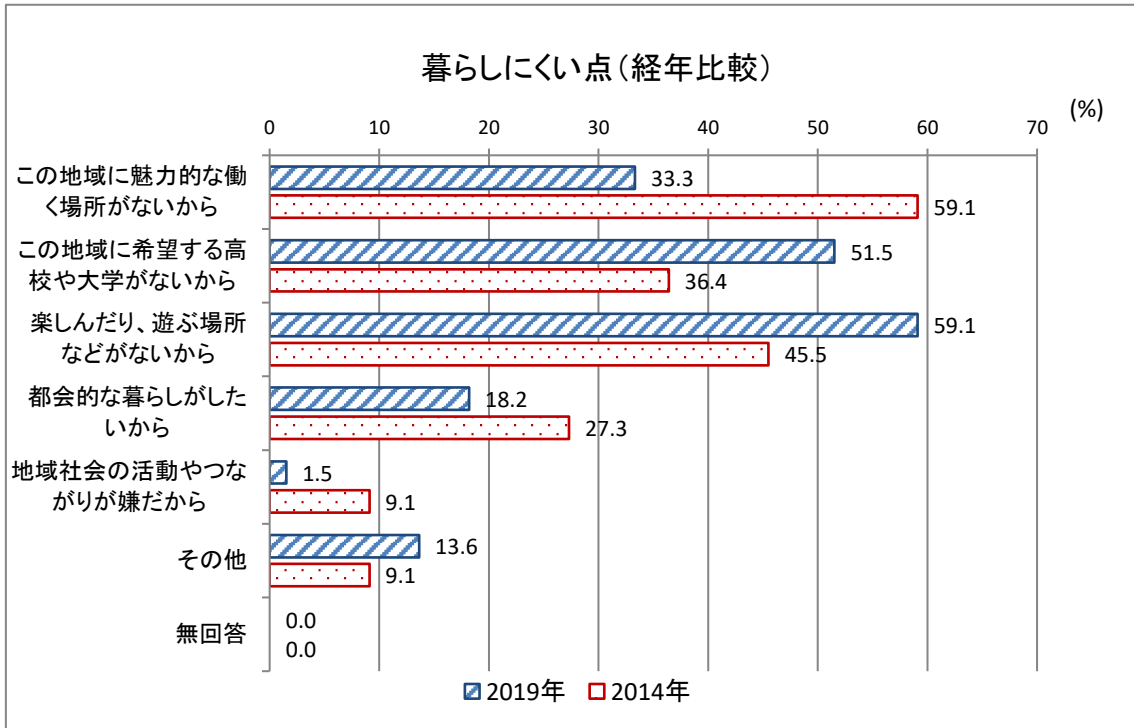
一方、「希望する高校や大学がない」が15.1ポイント上昇、「楽しんだり遊んだりする場所がない」が13.6ポイント上昇。職場の項を抜き、住みにくいと感じる点の上位2項目に上がっている。

前回調査と比較するにあたって、回答者の校種による考え方の違いを確認したところ、「魅力的な職場がないこと」を挙げた回答者は中学生の方が10.0ポイント多く、「希望する高校・大学がないこと」は、中学生を除く学生（主に高校生）が15.1ポイント多かった。

この間、新城高等学校・新城東高等学校の合併（2019～2021年）が進んでおり、このことが少なからず当該の世代に影響を与えていると考えられる。

■東栄町の暮らしにくい点



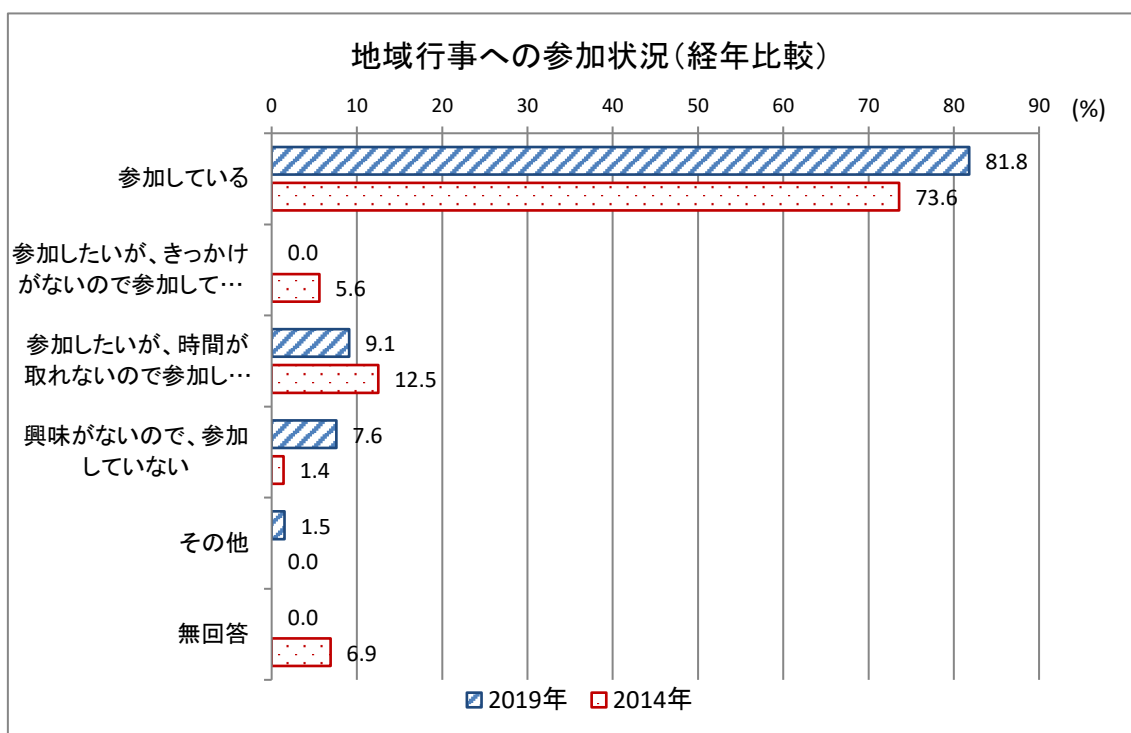
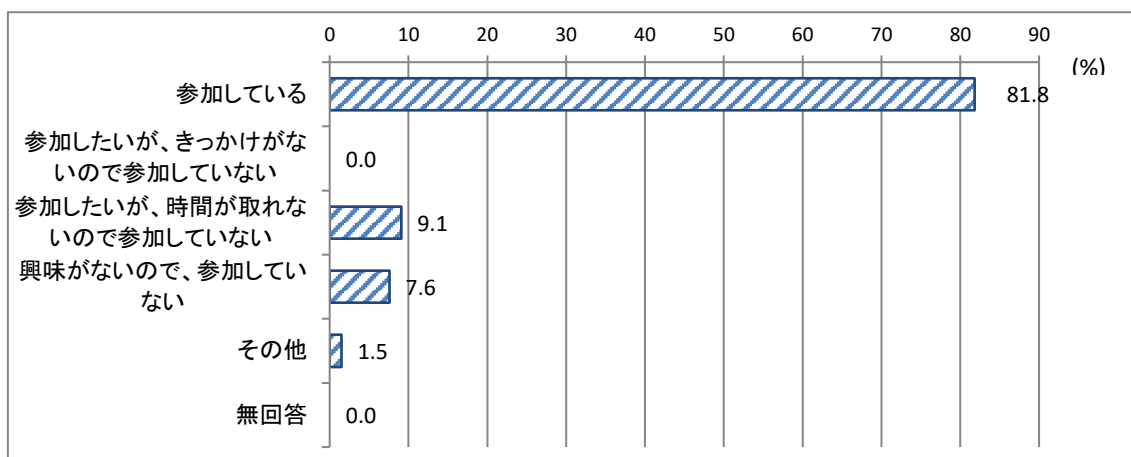


問 8 あなたは、地域の行事(環境美化活動、防災訓練、お祭りなど)に参加していますか。

前回調査と比較して、「参加している」が 8.2 ポイント上昇しているが、総体としてはこの 5 年の間で大きな変化はない。

一般的には、学校の部活動や塾などに押されて地域行事等への参加率が低下する傾向にある中学～高校の年代であるが、東栄町においては地域との関係性を維持していることが分かる。

■地域の行事に参加しているか



問9 あなたは、まちづくりのどんな分野に興味がありますか。あてはまる項目すべてを選択してください。

若い世代の関心は比較的多岐にわたるが、「農業」「保健」「道路整備」「行政運営」についての関心が低めになっている。

一方で、50%以上の回答者が興味を持っているのが「観光」「文化」であり、若い世代が関心を共有できる分野であるとともに、将来の担い手が育ちやすい状況にあると考えられる。

■興味のあるまちづくりの分野

